

松田華音
×
牛田智大
2台ピアノ・コンサート

Kanon Matsuda × Tomoharu Ushida “Two Pianos”

2022年7月21日(木) 午後7時

7:00 p.m., Thursday, July 21, 2022

東京オペラシティ コンサートホール

Tokyo Opera City Concert Hall

【主催】ジャパン・アーツ 【協賛】  MEDIHEAL

【協力】ユニバーサル ミュージック

Program

プログラム

J.S.バッハ (ブゾーニ編)

コラール前奏曲「主よ、われ汝に呼ばわる」 BWV639
(牛田智大ソロ)

J.S.Bach (Arr.Busoni)

Chorale Prelude BWV639 “Ich ruf zu dir, Herr Jesu Christ”
(T.Ushida / Solo)

チャイコフスキー

18の小品 Op.72より

第8番「対話」

第18番「踊りの情景」(トレパークへの誘い)
(松田華音ソロ)

Tchaikovsky

18 Piano Pieces,

Op.72-8 「Dialogue」,

Op.72-18 「Scene Dansante」 (Invitation Au Trepac)
(K.Matsuda / Solo)

ラフマニノフ

組曲第1番「幻想的絵画」 Op.5

【2台ピアノ】 第1ピアノ:松田華音 第2ピアノ:牛田智大

Rachmaninov

Suite No.1 for Two Pianos “Fantaisie-tableaux” Op.5
[Two Pianos]

プロコフィエフ (プレトニョフ編)

バレエ組曲「シンデレラ」 Op.87

【2台ピアノ】 第1ピアノ:牛田智大 第2ピアノ:松田華音

Prokofiev (Arr.Pletnev)

Suite from Ballet “Cinderella” Op.87
[Two Pianos]

Profile

プロフィール

松田華音(ピアノ) Kanon Matsuda, *Piano*

香川県高松市生まれ。4歳で細田淑子に師事、ピアノをはじめ。

2002年秋、6歳でモスクワに渡りE.P.イワノフ、M.ヴォスクレセンスキー、E.ヴィルサラーゼ各氏に師事、翌年ロシア最高峰の名門音楽学校、モスクワ市立グネーシン記念中等(高等)音楽専門学校ピアノ科に第一位で入学。

2004年 エドヴァルド・グリーグ国際ピアノ・コンクール(モスクワ)グランプリ受賞他、多くのコンクールで優勝を果たす。2011年12月、国立アレクサンドル・スクリャービン記念博物館より2011年度の「スクリャービン奨学生」に選ばれる。

2013年2月、モスクワ市立グネーシン記念中等(高等)音楽専門学校で外国人初の一優秀生徒賞を受賞。翌年同校を首席で卒業。同年9月、モスクワ音楽院に日本人初となるロシア政府特別奨学生として入学し、2019年6月首席で卒業した。(グネーシン、モスクワ音楽院共に、ロシアで成績優秀者に贈られる「赤の卒業証書」を授与。)同年、モスクワ音楽院大学院に入学、2021年6月修了。

2014年11月ドイツ・グラモフォンよりCDデビュー。2017年6月に最新アルバム「展覧会の絵」をリリースした。オーケストラとの初共演は8歳。2018年かがわ21世紀大賞受賞。



Kanon Matsuda

©Ayako Yamamoto

牛田智大(ピアノ) Tomoharu Ushida, *Piano*

2018年第10回浜松国際ピアノコンクールにて第2位、併せてワルシャワ市長賞、聴衆賞を受賞。2019年第29回出光音楽賞受賞。1999年福島県いわき市生まれ。6歳まで上海で育つ。

2012年、クラシックの日本人ピアニストとして最年少(12歳)でユニバーサルミュージックよりCDデビュー。これまでにベスト盤を含む計8枚のCDをリリース。2015年「愛の喜び」、2016年「展覧会の絵」、2019年「ショパン:バラード第1番、24の前奏曲」は連続してレコード芸術特選盤に選ばれている。

シュテファン・ヴラダー指揮ウィーン室内管(2014年)、ミハイル・プレトニョフ指揮ロシア・ナショナル管(2015年/2018年)、小林研一郎指揮ハンガリー国立フィル(2016年)、ヤツェク・カズプシク指揮ワルシャワ国立フィル(2018年)各日本公演のソリストを務めたほか、全国各地での演奏会で活躍。その音楽性を高く評価され、2019年5月プレトニョフ指揮ロシア・ナショナル管モスクワ公演、8月にワルシャワ、10月にはブリュッセルでのリサイタルに招かれた。

20歳を記念し2020年8月31日には東京・サントリーホールでリサイタルを行い、大成功を収めた。また2022年3月、デビュー10周年を迎えて開催した記念リサイタルは各地で好評を博した。人気実力とも、若手を代表するピアニストの一人として注目を集めている。



Tomoharu Ushida

©Ariga Terasawa

プログラムノート

J.S.バッハ (ブゾニ編): コラール前奏曲「主よ、われ汝に呼ばわる」BWV639

本作品は、バッハが作曲したコラール前奏曲のピアノ編曲版である。コラールとはルター派教会における賛美歌を指すが、そのコラールを礼拝で歌う前にオルガンが演奏する曲をコラール前奏曲と呼ぶ。コラール前奏曲はコラールを元に作曲され、本作品でも主の御許に歩み寄るような2声を背景に、ソプラノ声部に置かれたコラールが神への尽きせぬ祈りを切々と謳っている。ピアノ用に編曲したのはバッハ作品の校訂、編曲の面でも重要な足跡を残したフェルッチョ・ブゾニである。一つの説として、教会での祈りの言葉に抑揚がついたものが西洋音楽の始まりと言われるが、本作品も音楽の本質や人知を超えたものへのひたむきな祈りが感じられる、短いながら壮大な作品。

チャイコフスキー: 18の小品 Op. 72より

チャイコフスキーが急逝したのは1893年、53歳の時であった。「18の小品」はその死の半年前に完成された作品である。この頃作曲家は書きかけていた「人生」という題の交響曲を破棄し、新たに作り掛かった交響曲第6番「悲愴」の完成に向けてひたすらにペンを走らせていた。このような非常に切迫したテーマに挑んでいた一方で、「18の小品」にはどこか親しい人、あるいは自分自身の心に秘密を打ち明けるようなくつろいだ魅力が感じられる。チャイコフスキーが遺した最後のピアノ作品。

第8番「対話」: アレグロ・モデラート 3/4拍子

女性と男性の対話の模倣であろうか、高揚感のある上声部の旋律と沈着な低音部の旋律が交互に現れ、語り合う。

第18番「踊りの情景」(トレパークへの誘い): アレグロ・ノン・タント 2/4拍子

トレパークとはロシア(中でもウクライナ地方)の農民による踊りである。その力強いモチーフが次々と華やかさを増していく。

ラフマニノフ: 組曲第1番「幻想的絵画」Op. 5 (2台ピアノ)

本作品は1893年、うら若き20歳のラフマニノフによる佳作。彼は1891年にモスクワ音楽院を首席で卒業し、オペラ「アレコ」を成功させ、早くも作曲家・ピアニストとして名声を獲得していた。この幻想曲は4楽章から成り、それぞれの楽章は冒頭に詩の引用を掲げている。インスピレーションを与えたそれらの詩は以下の通りである。

第1曲「舟歌」: アレグレット 3/4拍子

「耳慣れた歌が遠くに、一方は悲しく、また一方は陽気にきこえていた。再び水面は静まり、二度と激情が戻ってくることはない…」 — レールモントフ

夜の水上を滑り行くゴンドラの様子が描写され、水音を背景に舟歌が時に楽しげに、時に悲しげに響く。

第2曲「夜と愛と」: アダージョ・ソステヌート 3/4拍子

「枝のまにまに、恋する夜鳴きうぐいすたちが歌っている。愛の誓いが火のように熱く語られ、風の音も波のざわめきも、音楽のようにきこえてくる…」 — バイロン

繊細なパッセージの中に夜鳴きうぐいすの鳴き声が巧みに織り込まれている。

第3曲「涙」: ラルゴ・ディ・モルト 4/4拍子

「人間の涙、おお、人間の涙よ!お前は朝も夜も流れる、人知れぬ涙、目には見えぬ涙、尽きることのない無数の涙が流れる、さながら、晩秋の夜中に降り続く雨のように流れるのだ」 — チュツチェフ

涙や不安を象徴する四つの四分音符の下行動機がほぼ一貫して奏され、葬送行進曲風のコーダに至る。ラフマニノフは故郷ノヴィゴロドの聖ソフィア寺院の鐘を悲しみの象徴として聴いていた。

第4曲「復活祭」: アレグロ・マエストーソ 4/4拍子

「復活祭の力強い鐘の音が地上に鳴り響き、空気全体が唸りながら震え始めた。歌うような祝砲の甲高い轟きが神聖な祝日の到来を告げた」 — ホミャーコフ

大小の鐘の音が賑やかに鳴り響く中、ロシア正教聖歌が死に対する生の勝利を讃える。輝かしい復活祭の情景の中で組曲は完結する。

プロコフィエフ (プレトニョフ編): バレエ組曲「シンデレラ」Op. 87 (2台ピアノ)

「シンデレラ」はプロコフィエフが作曲したバレエ音楽である。物語は、フランスの詩人シャルル・ペローの童話「シンデレラ」に基づき、1945年11月、モスクワのポリジオイ劇場で初演された。やがて、ルガーノ・フェスティバルの「マルタ・アルゲリッチ・プロジェクト」に招かれたミハイル・プレトニョフはこれを2台ピアノ版に編曲し、2002年6月にアルゲリッチと自らで初演を行った。

第1曲「序奏」: アンダンテ・ドルチェ 4/4拍子

甘美で夢幻的な抒情美に溢れる序曲。バレエ全体に現れる各々のモチーフが姿を現す。

第2曲「いさかい」: アレグレット 2/4拍子

シンデレラの二人の義姉妹が、互いに自分の方が美しいと喧嘩を始める場面。

第3曲「冬」: アダージョ 4/4拍子

舞踏会を夢見るシンデレラのために仙女のおばあさんが四季の精霊を召喚し、彼女に美しい衣装を纏わせる。冬の精は雪のようにきらめきながら優雅に舞う。

第4曲「春」: ヴィヴァーチェ・コン・ブリオ 6/8拍子

新しい生命力と光に満ち溢れた春の精の舞。

第5曲「シンデレラのワルツ」: アンダンテ-アレグレット 3/4拍子

シンデレラのライトモチーフ(特定の人物を象徴し、その人物の登場の度に劇中に繰り返し現れる旋律)が使われたロマンティックで優美なワルツ。

第6曲「ガヴェット」: アレグレット 4/4拍子

プロコフィエフがチャイコフスキーのバレエ作品を継承し、クラシック・バレエの伝統を意識した作曲を行ったことがこの古典的な舞曲の登場に見て取れる。

第7曲「ギャロップ」: プレスト 2/4拍子

ガラスの靴の持ち主を探すために王子が東奔西走する場面。

第8曲「ゆるやかなワルツ」: アダージョ 4/4拍子

真夜中の鐘が鳴る二分前、シンデレラと王子が舞踏会場から逃れる直前まで踊られるワルツ。

第9曲「フィナーレ」: アレグロ・モデラート 4/4拍子

遂に時計の針が12時を指し、魔法が溶けて全ての夢物語が崩壊する場面。絶えず時を刻む秒針の様が見事に表現されている。